

第二の故郷



浦山 ひかる (うらやま ひかる)

令和5年度から奥尻町地域おこし協力隊になり、令和7年度から3年目になります。出身は美咲市で、高校進学をきっかけに奥尻島に移住しました。その後、進学のため、少し離れましたが協力隊としてUターン(?)してきました。現在は観光協会に勤務しています。

【奥尻島について】

奥尻島は北海道最西端に位置する離島で、利尻島の次に大きい島です。人口は約2140人（2024年12月30日時点）。島の面積のほとんどは森林で覆われ、その森林の多くはブナの木です。島の水はブナの木のおかげで昔から途絶えることなく、流れ続けています。島へのアクセスは江差町からフェリーで約2時間10分、飛行機では金曜日と日曜日に札幌の丘珠空港発の直行便が飛んでいます。その他の曜日は函館空港発になります。

【きっかけ】

私が奥尻島に住んでみたいと思ったきっかけは奥尻高校への進学です。奥尻高校は地域みらい留学の参画校であり、スクーバダイビングや町おこしワークショップという変わった授業で島全体を学び場としている高校です。当時の私は現状の環境に飽きていたのと、近くに面白そうな高校がなく、ギリギリまで進路先で悩んでいました。そんな時、テレビを見ていると

奥尻高校が取り上げられていて、島という特別感と、なんとなく面白そうだなという考えだけで進学を決意しました。

また、奥尻高校にはOID（オクシリイノベーション事業部）という変わった部活があります。どのような部活か簡潔に説明すると「部活動のための部活」という部活です。活動内容はOIDオリジナルグッズの販売や記事作成などでお金をいただき、そのお金を他の部活動の遠征費にする活動です。私はこの部活の1期生で、部員と手探りで3年間活動をして、私が卒業した今でも後輩が頑張っています。活動の中では島との関わりが多く、代表的な活動として地酒奥尻の5周年記念ラベルの作成をさせていただきました。デザインした地酒は20歳になった時に飲みましたが、自分たちがいろいろな思いを込めて、デザインしたという思い出補正も重なって、とてもおいしく感じられました。

【協力隊の活動】

このような高校生活やOIDでの活動を通して、島についてもっと知りたい、将来は住んでみたいと考えていました。ただ、島で働くとしても自分の武器や強みを活かして奥尻島に貢献したいと考え、高校卒業後はデザインの専門学校に進み、グラフィックデザインについて学び、卒業後は奥尻島の協力隊として観光協会に勤務しています。自分の強みを活かした活動は、島内のお祭りのポスターや、「BREATH OKUSHIRI」という島に移住してきた方々やOIDのみなさんで作った移住者目線のフリーペーパーの作成です。観光、移住、Uターンしてきた方々や、現役島留学生たちの視点など、多方面からの奥尻島の魅力や価値が可視化できて楽しい活動でした。作成したものを島の皆さんから評価してもらえると、とても嬉しいですし自分自身の武器や強みを活かしていると感じられます。



「移住ドラフト会議」

【暮らして困ったこと】

奥尻島とは高校生からのつながりですが、冬は雪の多い空知で育った私は奥尻島の雪の少なさに驚きながらも、毎日雪かきをしなくていいことに嬉しさを感じました。ただ、風が強すぎることにに関して甘く見ていました。特に、島の命であるフェリーという交通機関が欠航し、物資やお店の食料品が届かず、空っぽの棚を見るときもありました。2024年の12月は例年の倍以上の雪が降り、島民も雪かきに追われ、島での1人暮らし2年目の試練を受けた気がします。

一方で、そんな辛かったことを忘れてしまうくらいのベストなシーズンがやってきます。1年を通して奥尻の海はすごく綺麗ですが、夏は段違いで綺麗です。透明度の高いオクシリブルーから見られる、島の特産品のウニやアワビ、魚たちは天然の水族館のようです。そして、森林浴もベストです。島を一周すると見られる森のトンネルやブナの森は、とても癒されます。島を一周するのは自然というものを過剰接種するにはもってこいです。

また、高校生の頃の話に戻ってしまいますが、島留学生には「島おや」という存在がいます。島で困ったこと、島のこんなところに行ってみたい、遠征があるから朝早い便のフェリーターミナルまで送迎をお願いしたい、という島初心者の方の島留学生たちにはとてもありがたい制度です。私は当時の島おやとは、協力隊になった今でも仲良くさせてもらっていて困り事があった際も、頼りになる存在です。

【野望】

私の野望は奥尻島に新しいモノを誕生させることです。私はお酒が飲める歳になってから、すっかりお酒にハマってしまいました。その中でも特にハマったのがジンです。そして、現在、いろいろな地域で作られているクラフトジンと出会い、それぞれのコンセプトや使用している材料を見て、とても魅力的で自由度の高いお酒だなと感じました。奥尻島も海産物だけではなく、春になると山菜が多く取れます。秋には木の実やキノコなど天然の食材がたくさんあります。それらを使い、海産物だけではない島全体の自然を感じるこ

とができるジンを作りたいと考えています。奥尻島にも地酒奥尻と奥尻ワインがあります。地酒奥尻は島のお米とお水を使い、製造を栗山町の小林酒造に委託しています。そして、奥尻ワインは島で育てている葡萄とお水を使い、島にあるワイナリーで製造されています。私は、この2つのブランディングに肩を並べるくらいのクラフトジンを将来は作って、奥尻島の食材を使ったおいしいご飯と一緒に飲みたいです。

また、まだ構想中の案ですが、商売やお酒の知識を深めるためにも、キッチンカーを使い島のお酒や全国のクラフトジンを島内外に広めつつ、知識を深めることができればいいなと考えています。何よりも、私は居酒屋でおいしいお酒とご飯を友だちや家族と囲む空間がとても素敵で大好きです。この大好きな空間ごと移動して、自分の成長にも繋げていきたいと思っています。

令和7年度からは協力隊3年目になり、ラストイヤーになります。年々、人口が減っていき、消滅可能性都市にもランクインしている奥尻島ですが、言い換えると伸びしろしかない町なのではないでしょうか。

社会の経験も人生の経験も浅い私ですが、第二の故郷を消滅させないためにも使えるものは使い、得られるものは得て、なんとか野望を果たすように突っ走っていきたいと思っています。



全国の離島が集まる祭典「アイランドー」